

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

（１）大学・学科の設置理念

①大学

本学は、日本国憲法、教育基本法及び学校教育法に則り、また、個性の伸展による人生練磨という建学の精神に基づき、一般教養並びに専門学術の理論及び応用を研究教授するとともに、工学という専門性を学生の個性として伸展させ、社会の創造発展に寄与し、地域に貢献する人材を育成する。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

【情報・AI・データサイエンス学科】

技術革新が著しい情報・電子・電気・ネットワーク・制御の先端技術情報や専門基礎知識および経営工学の基礎知識を教授し、実験・実習で応用力を養成し、情報・電子機器、情報ネットワークおよび各種ソフトウェアの先端的設計・開発・運用・保守を行える、創造性溢れる人材育成並びにICTを活用したビジネス分野で活躍できる人材を育成する。

（２）教員養成の目標・計画

①大学

本学では、建学の精神に基づいて、工学分野への旺盛な研究心を有し、人間・社会・自然と技術の関わりに関心を持ち、何事にも挑戦する気概を持った国内外の多種多様な学生を受け入れ、入学後は更にそうした学生の個性を伸ばし、社会の創造発展に貢献できる技術者として育てていくことに情熱を注いでいる。

教員養成においても、本学の精神に則り、学生一人ひとりの「自己のよさを発見し、発展させ、活かしていく」学びの過程の充実を教育の基本としながら、グローバルな視野、柔軟で創造的な思考力、高度な専門性を有する教員の養成を図っている。特に九州圏には、生徒たちの個性の進展を目指して総合学科あるいは専門学科を設置し、多様な分野の専門教育や特色ある教育実践を展開させている高等学校が多数ある。修得した専門的な知識技術を活かしながらこれらの学校の教育実践を支え、即戦力として貢献できる教員を輩出することは、南九州地域で唯一の私学の工学系大学であり、「個性の進展による人生練磨」を建学の精神とする本学の使命と考える。

次のような教員を養成する。

- 個性の進展による豊かな人間性と熱意あふれる教員
- 創造性を活かし、様々な課題に対して仲間と協働しながら解決できる教員
- 専門性に基づく実践的指導力を有する教員
- 探求心旺盛で、自ら学び続ける教員

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

【情報・AI・データサイエンス学科】

情報技術の急激な進展が子どもたちを取り巻く環境にも大きく影響を与えており、学校教育においても、小・中・高等学校を通じて、情報を主体的にかつ適切に活用する能力を系統的に育成することが求められている。本学科では、学科の学修の根幹である情報・電子・電気・ネットワーク・制御の専門基礎知識と先端技術情報を礎に、未来を見据え、幅広い知識とより深い専門性を持った教育者を育成することを目標としている。教育実習だけでなく、教職実践演習や学外での活動を積極的に行い、生徒や先生方の生の声に耳を傾けながら、時代の要請に即応し、学校現場においても常に学び続ける姿勢と実践力を身につけられるように、理論と演習の徹底、および、実践とそのフィードバックを

重要視しながら教員養成を行なう。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

【高等学校：情報】

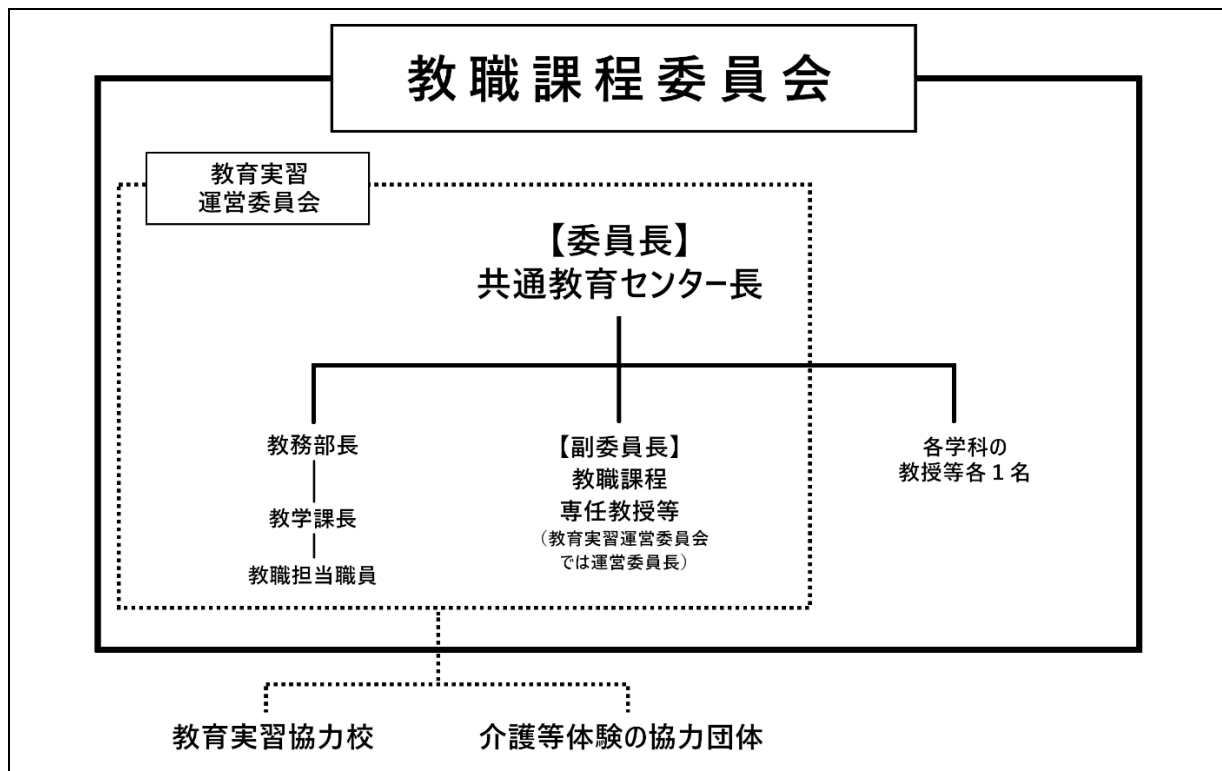
絶え間ない技術革新により子供たちを取り巻く環境が大きく変化している。このような社会に対応するために本学科では、ICTの基礎から学び、AIエンジニア、データサイエンティストの育成を行なっている。情報化やグローバル化が進展する社会で様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していく子供たちを育成するために、本学科で学修する情報・電子・電気・ネットワーク・制御の基礎的・専門的な知識や技能を、情報教育の目標である「情報活用の実践力」、「情報の科学的な理解」、「情報社会に参画する態度」と有機的に結合させ、小・中・高等学校を通して体系的・系統的に行われる情報教育に主体的に対応できるような、豊かな人間性と熱意にあふれ、実践的指導力を持った教員の養成を目指す。

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

組織名称：	教職課程委員会
目的：	教育職員免許法に規定する免許状授与の所要資格を得させるための課程（以下「教職課程」という。）に関し、次に掲げる事項を審議する。 (1) 教職課程の企画運営に関する事項について審議し、執行する。 (2) 教職課程に関する科目の編成及び改廃並びに担当者に関する事項について審議し、執行する。 (3) 教育実習校の選定と決定を行う。 (4) その他教職課程に関する事項について審議し、執行する。
責任者：	共通教育センター長
構成員（役職・人数）：	委員会は、委員長、副委員長及び次の各号に掲げる者をもって組織する。 (1) 共通教育センター長 (2) 教務部長 (3) 教職専任教授等1名 (4) 各学科の教授等各1名 委員会の委員長は共通教育センター長をもって、副委員長は教職課程専任教授等をもって充てる。
運営方法：	委員長は、上記目的に記載した事項について審議するために、必要に応じて委員会を招集し、その議長となる。

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



様式第7号イ

Ⅱ. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

○鹿児島県工業教育振興懇話会における意見交換会

本学を会場とした鹿児島県工業教育振興懇話会の研修を近年、3回実施。

- ・参加者：鹿児島県立の工業科設置高校（13校）の校長・教頭
- ・内 容：本学の施設見学、本学の副学長・工学部長・入試課長を交えての意見交換

○鹿児島県高等学校教育研究会工業部会の教職員実技講習会における交流・意見交換

本学を会場として2021年12月に実施。

- ・参加者：工業高校の機械系教職員21名（うち6名が本学出身）

- ・内 容：各種工作機械の操作・整備の研修会、

本学の教職課程科目（工業科教育法）担当教員による講演「ものづくり教育の展望」、
フライス盤作業の加工工程設計に関する意見交換

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称： 学校インターンシップ（隼人工業高等学校、都城東高等学校、舞鶴中学校）

連携先との調整方法： 教員がメール・電話にて連絡、学生への連絡業務を担当

具体的な内容： 各高校・中学校と連携し、授業参観、給食・掃除補助、担当業務の指導補助。部活動での補助ボランティア。

Ⅲ. 教職指導の状況

下記スケジュールのとおり、前期・後期の授業開始ごとにオリエンテーションを行い、学生が教職課程や介護等体験、教育実習について理解を深められるように努めている。

また、教職課程指導室を設け、教職課程履修等について不安のある学生への個別相談に対応し、支援を行っているほか、個々の教職課程専任教員も適宜、学生への相談対応・個別指導を行っている。さらに、教職課程専任教員が、主に教員採用試験対策の勉強会を行っている学生サークルの顧問となり、教員採用試験対策の支援を行っている。

1年次

- 4月初旬：教職課程履修のオリエンテーション（前期）
- 5月初旬まで：教職課程履修の希望確認書の提出
- 5月中旬：教職課程履修の希望者への説明会
- 5月末迄：受講願提出及び教職教育費（受講料）の納付
- 9月下旬：オリエンテーション（後期）

2年次

- 4月上旬：オリエンテーション（前期）
- 6～10月：介護等体験の事前指導・介護等体験の実施
- 9月下旬：オリエンテーション（後期）

3年次

- 4月上旬：オリエンテーション（前期）
- 7月：教育実習に関する説明会

様式第7号イ

7月～8月 : 教育実習に関し希望校への依頼

9月 : 教育実習内諾書の提出

9月下旬 : オリエンテーション（後期）

4年次

4月上旬 : オリエンテーション（前期）

4月 : 教育実習の正式依頼、教育実習依頼書の送付及び承諾書の受領

5月～6月中 : 教員採用試験願書の申請（県教育委員会へ）

旬 : 教育実習への参加

5月～10月 : オリエンテーション（後期）

9月下旬 : 免許申請の確認書の提出

9月末～10月 : 教員免許状の受領

卒業式当日

様式第7号ウ

<工学部 情報・AI・データサイエンス学科> (認定課程: 高一種免(情報))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	・教職の意義及び教師の役割・職務内容について理解する。児童・生徒時代は教えられる立場であったが、逆の立場から教育を考えることとなるので、塾の講師等との差違を考えることによって、より学校教育上で必要とされる教師の役割について理解する。 ・教職に関する基礎的素養として、特に教育と情報との関係についてよく理解する。 ・情報各分野の基礎理論等について理解する。
	後期	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について、教育の理念や哲学については、ルソーとデューイの教育哲学が現代の日本の教育にも綿々と受け継がれている点を中心として理解する。 ・教職に関する基礎的素養のうち、外国語学である英語の会話力をつけるためにどうすればよいのかを理解するため、方法論としての基礎的技能を習得する。 ・専門科目における教科に関する科目を習得する。
2年次	前期	・幼児・児童及び生徒の心身の発達については、その基礎的理論が心理学各実験から明らかにされてきていることを写真やデータから読み解く。また教育心理学が、子どもの学習意欲とも大きく関係することを理解し、教育実践でも大きく役立つことを理解する。 ・情報に関する実験技法を習得する。
	後期	・教育に関する社会的、制度的或いは経営的事項のうち基本について理解する。 ・教育課程の意義及び編成方法について理解する。 ・各学校が主体的に編成できるようになった教育課程と学習指導要領で遵守しなければならない事項との密接な関係があることを理解する。 ・特別の支援を必要とする生徒がどの学校にも存在し、それぞれの生徒に対する理解と教育的支援の重要性を理解する。 ・専門科目のうち情報システムやマルチメディアに関する科目について実習を中心に理解する。
3年次	前期	・現代教育に関する基礎的素養の必要性と教育課程編成の基礎となることや、日本国憲法については特に人権と教育を受ける権利について理解する。 ・特別活動については歴史的な変遷を含めていかなる教育実践が考えられるのか、また総合的な探究の時間の理論とこれまでの流れ、さらに指導法としてのあり方について理解する。 ・教育の方法及び技術を理解し、ICT教育に関する理論と技術を身に付ける。 ・教育相談の初歩的理論及び方法を理解し、生徒個人の内面を理解できるようにする。 ・情報科教育法(教材・教具・コミュニケーション等)についての基礎知識や技法を習得する。 ・情報処理の流れを理解し、データベースやデータサイエンスの基礎事項を理解する。 ・情報分野におけるプログラミングに関する知識を修得する。
	後期	・生徒指導については理論と実践の両面を考える教育の重要性を理解する。また進路指導については生徒個人に対するキャリア教育とキャリアカウンセリングを含めた知識や技能を身に付ける。 ・情報科教育法(教材・教具・コミュニケーション等)についての応用知識や技法をより高度な水準で習得する。 ・情報に関するプログラミングの技法を中心に習得する。
4年次	前期	・教員としての資質能力をさらに発展させるために、教育実習を通じて教師に必要とされる広範な能力や計画性、実践力について理解する。 ・生徒理解及び学級経営の理想的なあり方を理解すると共に、自分の問題意識を確認し教師としての自覚を深める。 ・情報各分野・情報科教育法の理解をもとに情報科教師として実践的指導力を身に付ける。
	後期	・教育者として実践すべき問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、進んで模擬授業や学校社会への参画意識を醸成する。 ・これからの学校教育と自分の教育に対する姿勢を自覚し、集団的な討論を行いながら、教育者としての奉仕的精神を涵養する。 ・情報各分野・情報科教育法の理解をもとに情報科教員としての実践的指導力を身に付ける。

様式第7号ウ（教諭）

＜工学部 情報・AI・データサイエンス学科＞（認定課程：高一種免（情報））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教師論			コンピュータリテラシー	
	後期	教育原理	基本情報処理講座Ⅰ		Freshman EnglishⅡ	
2年次	前期	教育心理学	情報通信ネットワークⅠ		体育実技Ⅰ	
			マルチメディア工学			
			データベースⅠ			
	後期	教育経営論	データベースⅡ		体育実技Ⅱ	
		教育課程論				
		特別支援教育論				
3年次	前期	特別活動論	経営情報システム		日本国憲法	
		総合的な学習の時間の指導法	オブジェクト志向プログラミングⅠ			
		教育の方法・技術（ICTの利活用）	オブジェクト志向プログラミング演習Ⅰ			
		生徒指導・進路指導論	情報ネットワーク応用工学			
		教育相談	情報化の進展と職業			
		情報科教育法Ⅰ				
	後期	情報科教育法Ⅱ	情報社会と情報倫理	総合演習Ⅰ		セキュリティマネジメント
			オブジェクト指向プログラミング演習Ⅱ			
			画像情報工学			
			データサイエンス演習Ⅰ			
4年次	前期	事前・事後指導	データサイエンス演習Ⅱ	総合演習Ⅱ		情報システム工学
		教育実習Ⅰ				
	後期	教職実践演習（中・高）	マルチメディア工学演習			